

報道関係者 各位

鳥取大学医学部
令和5年6月6日

妊娠前の減量行動が産後うつに及ぼす影響について —女性の健康政策反映に期待—

日頃より、鳥取大学医学部の教育・研究活動へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、本学の医学科・健康政策医学分野の増本年男助教が、世界で初めて妊娠前の減量行動が産後うつに及ぼす影響について研究を行い、妊娠前のBMIによって、減量行動の産後うつへの影響が異なることが示唆されましたのでお知らせします。

つきましては、取材についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【概要】

鳥取大学エコチル調査ユニットセンター研究チームにおいて、環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」に参加している10万人のデータを用いて、妊娠前の減量行動と産後うつの関連について解析しました。その結果、妊娠一年前に減量行動が産後うつと関連していることが分かりました。特に、極めて不健康な減量行動(食べたものを吐く、喫煙をする、痩せ薬を飲む)をとった女性では産後うつの発症リスクを示すオッズ比が顕著に増加しました。更にこの関連は妊娠前のBMIによって変化し、やせ・正常BMI(BMI25未満)では関連が見られましたが、肥満(BMI25以上)では見られませんでした。これらの結果から、妊娠前の減量行動と産後うつの関連が示唆され、今後、女性の健康政策へ反映していくことが期待されます。

本研究結果は、令和5年5月5日付でScientific Reports誌に掲載されました。

また、本研究は、環境省の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の支援を受けて行われました。

研究の詳細については**別紙**をご覧ください。

【研究について】	【取材について】
鳥取大学 医学部 社会医学講座 健康政策医学分野 助授 増本 年男(ますもと としお) TEL:0859-38-6113 E-mail:tmasumoto@tottori-u.ac.jp	鳥取大学米子地区事務部総務課広報係 TEL:0859-38-7037 FAX:0859-38-7029 E-mail: me-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp

1. 研究の背景

子どもの健康と環境に関する全国調査（以下、「エコチル調査」）は、胎児期から小児期にかけての化学物質ばく露が子どもの健康に与える影響を明らかにするために、平成 22（2010）年度から全国で約 10 万組の親子を対象として環境省が開始した、大規模かつ長期にわたる出生コホート調査^{*1}です。臍帯血、血液、尿、母乳、乳歯等の生体試料を採取し保存・分析するとともに、追跡調査を行い、子どもの健康と化学物質等の環境要因との関係を明らかにしています。エコチル調査は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを、国立成育医療研究センターに医学的支援のためのメディカルサポートセンターを、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された 15 の大学等に地域の調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が協働して実施しています。鳥取大学は 15 のユニットセンターのうちの一つとして、調査・研究を行っております。

令和元年の厚生労働省の国民健康・栄養調査によると、20 代の女性のうち 20.7%が痩せ型(BMI^{*2}<18.5)、70.4%が正常範囲内(18.5≤BMI<25)です。しかし、現在日本では、メディアやファッション、SNS の発展等により、減量の必要がない女性でも偏った食生活や過度な運動などの減量行動をしてしまうことがよくあります。これまでの研究により、過度な減量行動はメンタルヘルスや身体健康にも影響を与えることが知られています。しかし、妊娠前の減量行動が産後うつに影響を与えるかどうかは不明です。

2. 研究内容と成果

本研究では、全国約 10 万組の参加者のうち、死産・流産・多胎・複数参加・精神科系疾患の既往歴あり、質問表の欠損値ありの女性を除き、62,020 組の母子を解析対象としました。産後うつの評価には、女性が記入したエジンバラ産後うつ質問票^{*3}を用い、9 点以上を産後うつの疑いありとしました。妊娠前の減量行動は、妊娠一年前に減量を目的として以下の行動（「食事の量を 3 分の 2 以下に減らす」「間食・夜食を減らす」「特定の食品（ダイエット食品）を摂る」「やせ薬を使う」「食べたものを吐く」「タバコを吸う」「運動をする」）を行ったかどうかを質問しました。

妊娠前の減量行動と産後うつの関連について、母親の出産時の年齢や社会経済状況、既往歴などの影響を制御した解析方法を用いて検討しました。さらに、妊娠前の BMI を考慮に入れ、痩せ・通常・肥満の 3 グループで妊娠前の減量行動と産後うつの関連との関連性も検討しました。

その結果、全体の解析では、妊娠前に 1 つ以上減量行動をとった女性では産後うつリスク増加と関連がみられました。さらに、個々の減量行動の有無が産後うつリスク増加と関

連があるかについて調べると、痩せ型(BMI<18.5)の女性では特定の減量行動（「食事の量を3分の2以下に減らす」「間食・夜食を減らす」「特定の食品（ダイエット食品）を摂る」「タバコを吸う」）を行った場合、産後うつとのリスク増加と関連が見られました。正常範囲内（ $18.5 \leq \text{BMI} < 25$ ）の女性では、すべての減量行動において産後うつとのリスク増加と関連が見られました。一方、肥満女性のグループでは「タバコを吸う」行動のみで産後うつとのリスク増加と関連が見られました。

3. 今後の展開

本研究は、62,020組の母子データを用いて、妊娠一年前に行った減量行動と妊娠後の産後うつとの関連について解析を行いました。その結果、減量行動が産後うつに関連することとその関連は妊娠前のBMIによって異なるといった興味深い結果が見られました。これらの関連は、肥満女性のグループでは「タバコを吸う」行動を除いて産後うつとの関連が見られなかったことから、減量行動自体を否定するものではなく、痩せ型および標準体型での女性における過度な減量行動が産後うつとのリスク増加と関連があることと示唆されました。

一方で、本研究では以下のような問題点があります。1) 減量行動は行ったか行っていないかでのみ評価しており、その頻度や強度は測定していないこと、2) 思い出しバイアスが存在すること、3) 減量行動を行う前のBMIが不明なこと、4) 摂食障害の有無や痩せ願望について完全に調査できていないことが挙げられます。エコチル調査では、こういった生活習慣以外にも様々な化学物質なども測定しています。引き続き、子どもの発育や健康に影響を与える因子について調査していきます。

4. 用語解説

※1 出生コホート：子どもが生まれる前から成長する期間を追跡して調査する疫学手法です。胎児期や小児期のばく露が、子どもの成長と健康にどのように影響しているか等を調査します。

※2 BMI：Body Mass Index(ボディマス指数)は、体重と身長の関係から算出される、ヒトの肥満度を表す体格指数です。痩せ型(BMI<18.5)、標準体型（ $18.5 \leq \text{BMI} < 25$ ）、肥満体型（BMI ≥ 25 ）の3グループに分類されます。

※3 エジンバラ産後うつ質問票：エジンバラ産後うつ質問票は産後うつのスクリーニング検査を目的に作られた自己記入式の評価表です。日本でも広く用いられています。9点以上を産後うつの疑いありとして評価します。

5. 発表論文

題名（英語）：Weight-loss behaviors before pregnancy associate with increased risk of postpartum depression from the Japan Environment and Children's Study

著者名（英語）：Saki Taniguchi¹, Toshio Masumoto², Youichi Kurozawa²

¹鳥取大学 医学部 エコチル調査鳥取ユニットセンター

²鳥取大学 医学部 社会医学講座 健康政策医学分野

掲載誌：Scientific Reports

DOI: 10.1038/s41598-023-34547-4

6. 問い合わせ先

【研究に関する問い合わせ】

鳥取大学 医学部 社会医学講座 健康政策医学分野

助教 増本年男

tmasumoto@tottori-u.ac.jp

0859-38-6113

【報道に関する問い合わせ】

鳥取大学 米子地区事務部総務課広報係

me-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp

0859-38-7037

※本研究の内容は、すべて著者の意見であり、環境省及び国立環境研究所の見解ではありません。